

宮城徹先生退職記念論集の刊行に寄せて

経営学部長 高井 徹雄

商学博士宮城徹教授は、2013年1月17日の御誕生日をもって満70歳に達せられ、今春3月には駒澤大学の定年制により退職されることとなりました。先生は1968年に琉球大学法文学部商学科を卒業の後、早稲田大学大学院商学研究科に進み、1977年に同研究科博士課程を満期退学、駒澤大学経営学部に着任されました。以来36年の長い歳月にわたり本学部に奉職され、特にドイツ経営学とアメリカ経営学の方法論的・理論的研究と教育に多大な貢献をなされました。

先生の学問研究の最大の特徴は、一貫してポパーの現代科学理論（科学哲学）に立脚しているところです。それは、先生の早稲田大学学位申請論文『企業の政治理論序説』（1983年、312頁）と、近著『組織の経済理論』（2012年、240頁）に浮き彫りにされています。ご本人によれば、1983年取得された商学博士号は旧制度によるもので、この学位は「絶滅種」として貴重なのだそうです。

先生の研究業績は国際的にも高い評価を得ており、ミュンヘン工科大学ビジネス・スクールの開校記念祝典式へ招待されて同校パンフレットに写真入りで先生の短文が紹介され、また、ドイツを代表する経営学者の最新の著書に推薦文を依頼・掲載されたことなどは、特記すべきことであります。

先生は、2001年から2期4年にわたり経営学部長（理事・評議員）を務められました。何故か、それまで先生とあまり交流のなかった私が学科主任に指名され、4年間宮城学部長にお仕えしました。学究的な面が際立つ先生でしたが、学部長になるや、学内に山積する課題他、法科大学院設置、246会館・深沢校舎建設、その他数々の難題に真摯に取り組まれました。学科主任として間近に見た先生は、学内行政の面でも決断力に優れた異能の人でした。尤も「意思決定の学」としての経営学を知る先生ならば、当然と言えば当然のこと。個人的には、上記「絶滅種・・」の下りに見られる、先生のウィットに富んだユーモアが大好きでした。今後とも、ご指導方お付き合いの程、どうぞ宜しくお願い致します。